

国民大運動行動報告

第053号
2021年
2月25日

「軍事費を削って、くらしと福祉・教育の充実を」
国民大運動実行委員会
〒113-8462 文京区湯島2-4-4 全労連会館内
Tel 03-5842-5611 Fax 03-5842-5620

～第204通常国会 国民大運動・安保破棄中実委・中央社保協主催 2・24 定例国会行動～

軍事費削って、いのち暮らし最優先の予算を!



衆議院第2会館前にて、国会にむけて拳をあげる参加者たち

2月24日、三者共催による定例国会行動、国公労連の森慧佑中央執行委員の司会のもとで時間を短縮しておこなわれ、衆議院第2議員会館前には100人を超える仲間が参加しました。国会では衆議院での予算審議が大詰めを迎えています。菅首相長男が関わる総務省幹部接待疑惑への追及のなかで、山田内閣広報官への高額接待の事実が明らかになり、さらなる徹底説明が求められています。同日、衆議院予算委員会では中央公聴会が開かれ、公述人として、全労連の小畑雅子議長が労働者、労働組合の立場から意見陳述をおこないました。また、埼玉デーなどの行動もとりくまれました。



左橋 主催者挨拶中の安保破棄中実委・東森事務局長

主催者を代表して挨拶をおこなった安保破棄中実委の東森英男事務局長は、「敵基地攻撃力」を安倍政権から引き継がないとしながら21年度予算案に長距離巡航ミサイルを計上したことを「敵基地攻撃能力」そのものだとして批判。さらに、総務省幹部の接待疑惑のなかで明らかになった元総務審議官、山田内閣広報官への7万円を超える飲食費についても厳しく批判した上で、「国民の願いと完全に逆行する菅自公政権を一日もはやく退陣に追い込もう」とよびかけました。



国会報告をおこなった日本共産党武田良介参議院議員は、同じ長野県出身で昨年末に亡くなられた羽田雄一郎参議院議員へのお悔やみを述べた上で、菅政権のコロナ対策について、PCR 検査や医療機関への支援の拡充で「救えた命がもっとあったのではないかと厳しく批判。また、十分な補償もないなかで罰則だけの感染症法改悪は相互監視、分断の社会をつくと指摘。総務省幹部接待疑惑問題も真相解明のために全力を尽くすとし、「4月の参議院長野選挙区補選、必ずおこなわれる解散総選挙で、何よりも国民の命、暮らしを守る政治へ転換させよう」とよびかけました。

午前中の衆議院予算委員会中央公聴会で公述人として意見陳述をおこなった全労連の小畑雅子議長は「2点訴えた。医療・介護、保育などケア労働者の賃金が低いこと、コロナ禍によってさらに広がった格差への手立てとして、最賃、雇用の問題を訴えた」と報告。「シフト制の実態など休業手当も支払われない失業状態の労働者が、女性を中心に90万人以上もいるのではないかと指摘し、『軍事費を削って、福祉や教育に予算をまわせ』の声をあげていく」と述べました。



日本医労連の米沢哲書記次長は、「この20年間で保健所は半分に、感染症病床は1/8に減らされている」とし、「予算案のなかにはさらなる医療費抑制関連の予算が組まれ、コロナ患者を受け入れてきた公立病院の病床削減を粛々と進めている」と批判。22日の生活保護引下げ違憲訴訟の大阪地裁判決での原告の女性の言葉を紹介し、「国民本位の政治に変えるために、絶対に諦めずに多くの仲間と励まし合いながらたたかいを広げよう。そのためにも『いのち署名』を頑張る」と決意を述べました。



中央社保協の山口一秀事務局長は、「生活保護引下げ違憲訴訟で大阪地裁は画期的な判決を出した。このことは利用者だけでなく、私たち市民生活全般にも影響を与えるものだ」とし、「この判決の意義を改めて確認し、私たちの運動に大きくいかしていこう。そして一つひとつの行動を成功させ、私たちの要求を国会に突きつけていこう」と述べ、行動提起をおこなうとともに、大阪地裁判決を控訴しないよう求める厚労大臣宛の署名への協力もよびかけました。

おしまいに、農民連の藤原麻子事務局次長によるマイクを通してのみのコールがおこなわれ、「山田内閣広報官の国会招致をおこなえ！」などと、参加者は国会に向けて怒りのこぶしを高く掲げました。

<当面の行動>

◆3月4日(木)11:00～ 「いのち署名」国会請願意思統一集会 星陵会館

◆3月5日(金)15:30～17:30 デジタル改革関連法案反対院内集会 参議院101 Youtube 配信

※次回日程：3/10、3/24、4/7、4/21、5/12、5/26、6/9 ● 12:15～13:00 ● 衆議院第2会館前